

2024年3月期 決算説明会

2024年6月14日

株式会社ランシステム

目次

1. 決算概要

1. 2024年3月期 実績数値
2. 2025年3月期 予測数値
3. 貸借対照表及びキャッシュフロー計算書

2. 事業紹介

1. 事業構成
2. 2024年3月期セグメント実績
3. セグメント報告(エンターテインメント事業)
4. セグメント報告(システム事業)
5. セグメント報告
(不動産事業・児童発達支援事業)

3. 対処すべき課題

1. 対処すべき課題と対応
2. 今後の展望

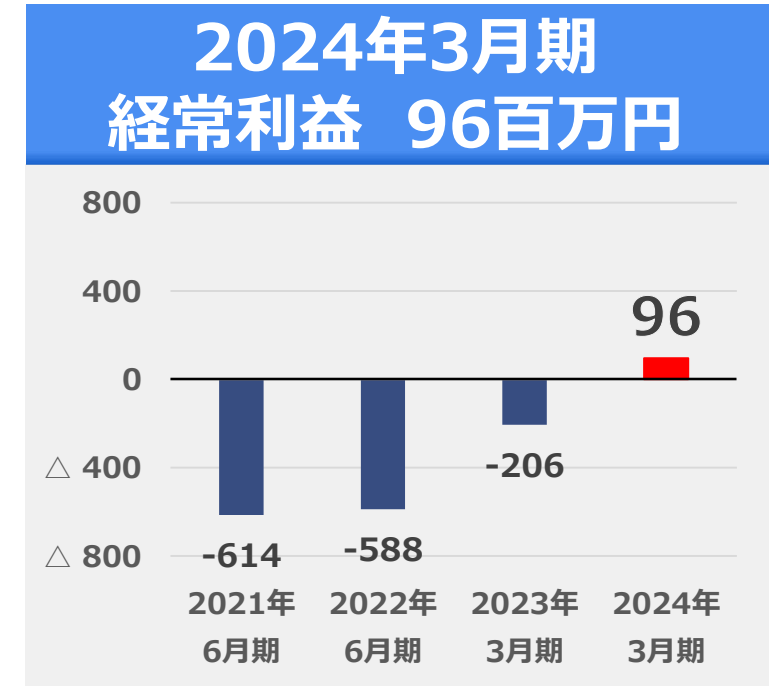
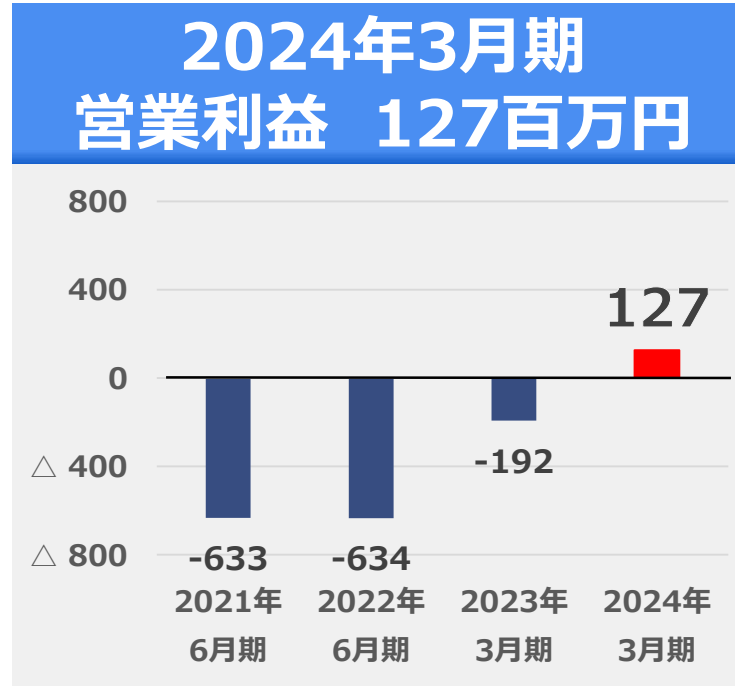
4. 補足資料

1. 株価チャート
2. 会社情報

1-1. 2024年3月期 実績数値



※単位：百万円



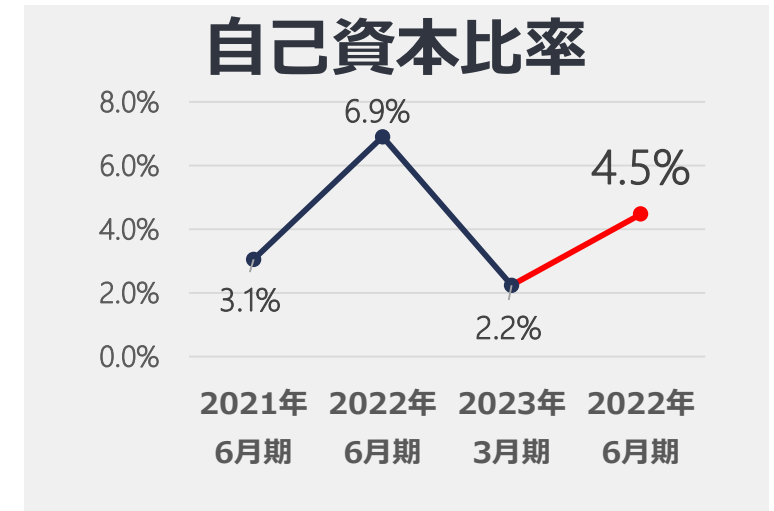
Topics

■ 2024年3月期の業績

「基本の徹底」「コストマネージメント」「リアル店舗以外での収益強化」に注力しつづけ、運営の効率化を追求しました結果、5期振りの黒字決算となりました。

注1) 2023年3月期は決算期の変更により、9か月の変則決算となっております。

注2) 2024年3月期に子会社である株式会社ランウェルネスの全株式を譲渡いたしました。

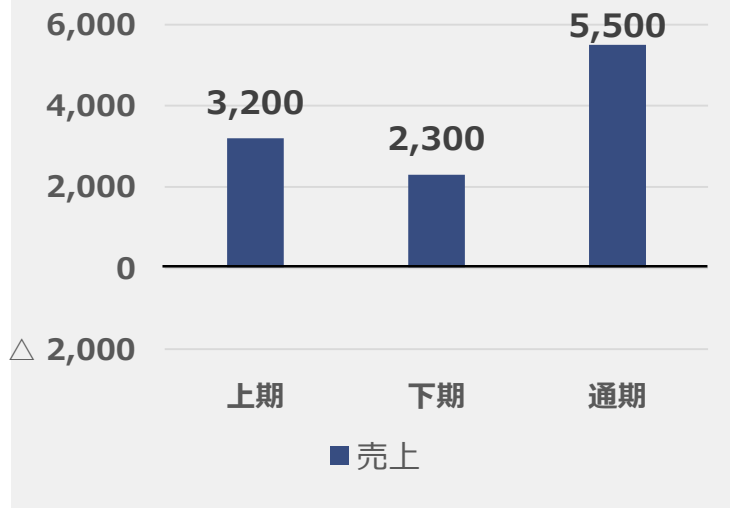


1-2. 2025年3月期 予測数値

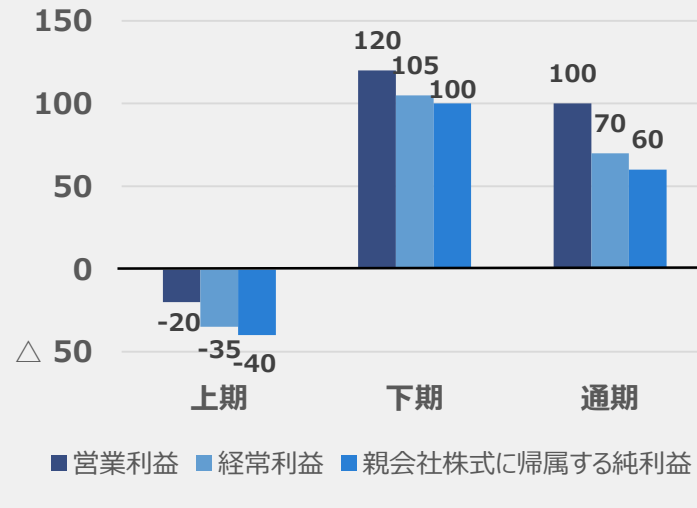


※単位：百万円

2025年3月期 売上高(予測)



2025年3月期 収益(予測)



セグメント毎の計画

- エンターテインメント事業
収益性の高い店舗に完全個室を導入
・第2四半期までにおよそ230百万円を計画

不採算店舗の閉店

別の業態のフランチャイズ展開

- ・個室麻雀サロンPSJとの業務委託
- ・自遊空間の新しいコンテンツとしての展開
- ・フランチャイズ加盟の推進

■ システム事業

- AOKIホールディングスのPC関連部材等の導入
- ・2024年3月期と同程度の営業利益見込み

システム開発会社との資本業務提携

- ・株式会社GSSLABとの協業
- ・システム開発・システム外販の事業規模拡大

将来市場を見据えた新規システムの開発

- ・省人化システムに関連した商材の開発
- ・予約システム・入退場システム等

Topics

■ 2025年3月期の業績予想

2025年3月期は2024年3月期を売上・利益ともに下回る見込みであり、これは2024年3月期に連結子会社である株式会社ランウェルネスの株式譲渡を行ったこと、停止していた賞与等の従業員に対する待遇改善を行うためであります。

■ 中長期計画に向けた準備

2025年3月期上期に店舗改装や不採算店舗の閉店、店舗や取引先のニーズを踏まえたシステム開発を行うとともに、システム事業における人員の増強や人材教育の充実を図り、事業規模を拡大させることに注力して参ります。

1-3. 貸借対照表・キャッシュフロー計算書



※単位：百万円

資産の部	2023年 3月期末	2024年 3月期末	増減	前期比	負債の部	2023年 3月期末	2024年 3月期末	増減	前期比	純資産の部	2023年 3月期末	2024年 3月期末	増減	前期比
現金及び預金	771	1,151	379	149%	買掛金	207	207	0	100%	資本金	100	100	—	100%
売掛金	451	387	△64	86%	1年内返済予定の長期借入金及び社債	733	347	△385	47%	資本剰余金	236	236	—	100%
商品及び製品、原材料、貯蔵品	128	114	△13	89%	リース債務	—	42	42	—	利益剰余金	△167	△67	99	—
その他	126	123	△3	97%	資産除去債務	24	227	202	937%	自己株式	△92	△92	—	—
貸倒引当金	△13	△0	12	—	その他	241	329	88	136%	純資産合計	76	176	99	230%
流動資産合計	1,465	1,775	309	121%	流動負債合計	1,206	1,155	△51	96%	負債純資産合計	3,420	3,944	524	115%
					長期借入金	1,806	2,062	255	114%					
有形固定資産	1,181	1,456	275	123%	リース債務	—	146	146	—	キャッシュフロー計算書	2023年 3月期末	2024年 3月期末	増減	前期比
無形固定資産	25	37	11	145%	資産除去債務	170	122	△47	72%	I.営業活動によるキャッシュフロー	△197	328	525	—
投資その他の資産	747	675	△72	90%	その他	160	281	121	176%	II.投資活動によるキャッシュフロー	68	128	60	188%
固定資産合計	1,955	2,169	214	111%	固定負債合計	2,136	2,612	475	122%	III.財務活動によるキャッシュフロー	△69	△77	△7	—
資産合計	3,420	3,944	524	115%	負債合計	3,343	3,767	424	113%	IV.現金及び現金同等物残高	771	1,151	379	149%

2-1. 事業構成



エンターテインメント事業

- ・直営店舗の運営
（株式会社ランセカンドを含む）
- ・フランチャイズ店舗のサポート
- ・各種商材の販売及び研修事業

システム事業

- ・システム商材の販売
- ・システム商材の保守
- ・新規システム商材の開発

不動産事業

- ・不動産物件の管理

児童発達支援事業

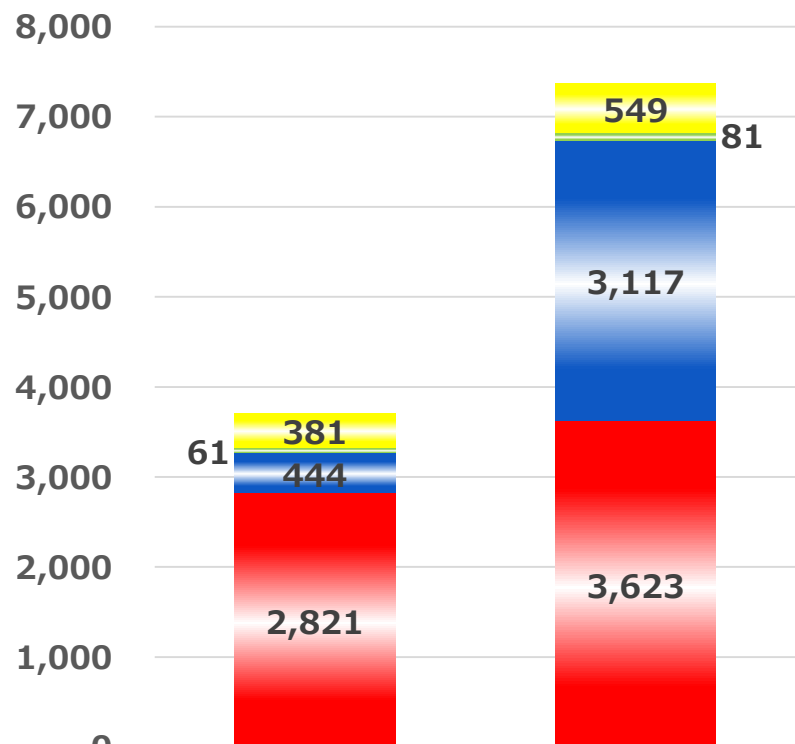
- ・児童及び生徒の発達支援
（株式会社ランウェルネス）

2-2. 2024年3月期 セグメント実績



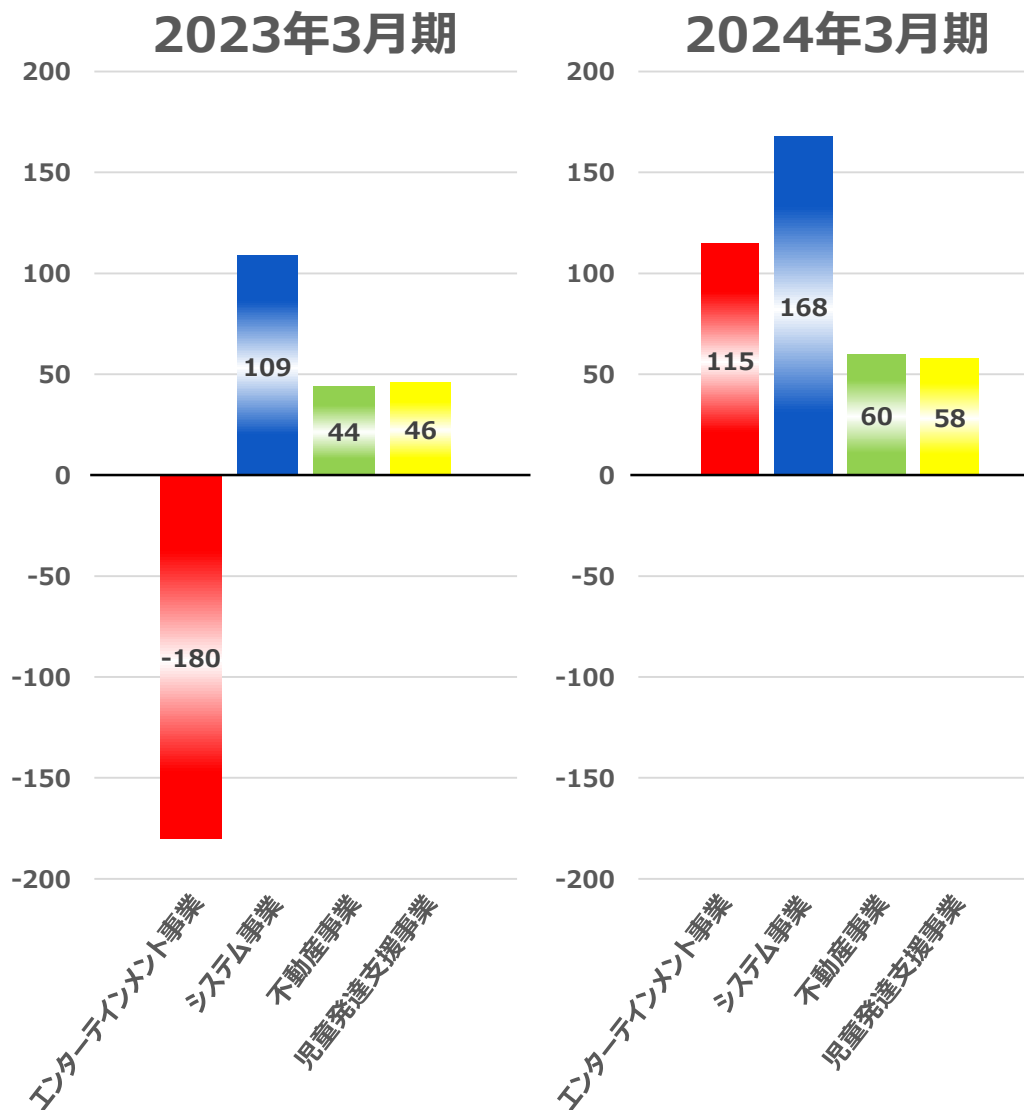
※2023年3月期は決算期の変更にともない9ヶ月決算 単位：百万円

売上高



事業種別	2023年3月期	2024年3月期
児童発達支援事業	381	549
不動産事業	61	81
システム事業	444	3,117
エンターテインメント事業	2,821	3,623

セグメント利益



2-3. エンターテインメント事業

2024年3月期概況

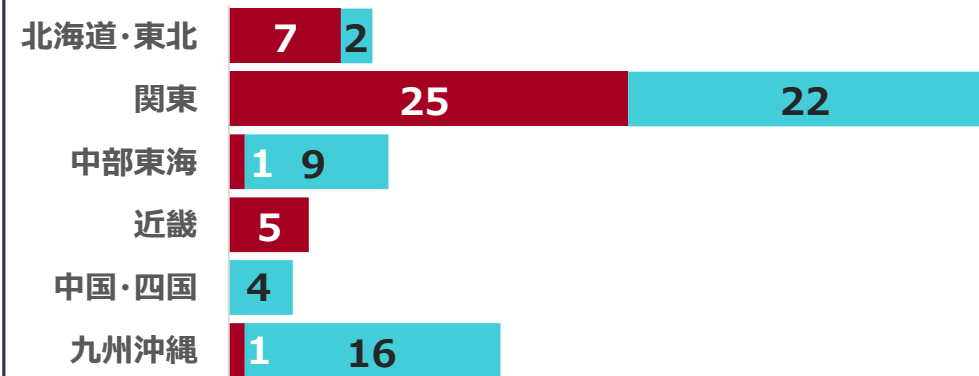
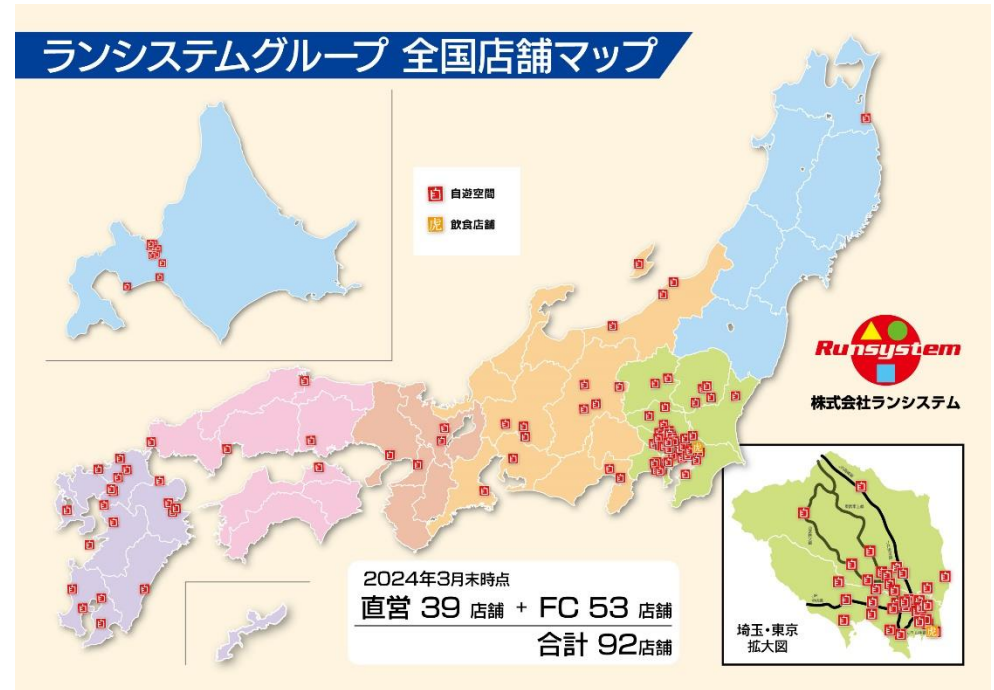
直営店舗においては、人流回復や店舗改装が功を奏し、売上前年比110%程度で推移しました。フランチャイズ店舗においても、売上高の上昇によりロイヤリティ収益が向上したこと、店舗備品の販売などで収益が増加しております。

2025年3月期展望

直営店舗においては、店舗改装による利便性・競争力の向上を継続するとともに、利益率の低い店舗及び賃貸借契約期間満了の店舗の閉店を計画しております。また、店舗別にコンセプトを設定して地域密着型店舗として来店目的・存在意義のある運営を行うことと、新型コロナウイルス感染症以降利用がなくなってしまっている休眠会員の掘り起こしに注力いたします。結果として、売上高は閉店店舗の影響で36期と比較して減少しますが、営業利益は増加する見込みです。

フランチャイズ店舗においては、36期で結果が出ている店舗改装による売上向上に基づいて改装提案を行い、ブランド力の向上及び自遊空間全体での売上向上に努めて参ります。

また、エンターテインメント事業における新たなコンテンツとして、子会社のランセカンドにて個室麻雀サロンの運営を行い、フランチャイズ展開にも協力して参ります。



■ 直営 ■ FC

2-4. システム事業



2024年3月期概況

システム事業においては、新規取引先の増加に加えて、グループ会社である株式会社快活フロンティアとの取引が増加しました結果、前期と比較し収益が大幅に増加致しました。なお、グループ会社向けの大型案件の主な取引の内容としましては、カラオケ『コート・ダジュール』のPOS開発、フィットネス『FIT24』の入退場ゲートシステムの開発、複合カフェ『快活CLUB』のパソコン納入となります。

製品紹介

製品名	製品概要	導入先
POSシステム	導入先の要望に合わせたオリジナリティの高いPOSシステム	カラオケ・ネットカフェ
遠隔接客システム	接客サービスの均質化・省人化を可能とするシステム	ホテル
QR鍵システム	QR認証で扉の開錠を行い利用可能なコンテンツを制御するシステム	フィットネス・カラオケ・ネットカフェ
ConnectWise Control Access	特定のパソコンに遠隔で安全に接続することを可能とするシステム	オフィス
RMC-100	電源が確保できる場所であればどこでも快適な通信を可能にするモバイルデータ通信機器	オフィスカー・移動事務所

2025年3月期展望

2024年3月期にAOKIホールディングスのグループ会社向けの大型案件があったため、2025年3月期の売上高は減少しますが、案件数の増加により同程度の営業利益を見込んでおります。

また、我々の強みであるリアル店舗で培ったノウハウを注入したシステムに加え、今後想定される労働不足に対応したシステム商材、QR鍵をパッケージ化し様々な業態へ販売を拡大して参ります。

さらに、人員増強、人材育成に注力し、資本業務提携を結んだシステム開発会社の株式会社GSSLABをはじめとした様々な企業と協力し、システム開発を強化、拡大させ、販路を広げることのできるチーム作りに力を入れて参ります。それに伴い、新しいシステム商材の開発にも取り掛かり、将来的な収益の柱となる事業に成長させて参ります。

2-5. 不動産事業及び児童発達支援事業



不動産事業

不動産事業においては、不動産賃貸物件の適切な管理に注力し、安定した収益を見込んでおります。

児童発達支援事業

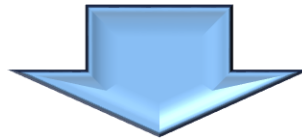
児童発達支援事業は、2024年3月26日に実行された株式会社ランウェルネスの株式譲渡により、当社グループにおける当事業を終了いたしました。

当株式譲渡における関係会社株式売却益は320百万円となりました。また、36期における売上高は549百万円、セグメント利益は58百万円であります。2025年3月期以降の連結数値は、2024年3月期と比較して同程度減少したものとなります。

3-1. 対処すべき課題と対応

消費者の生活様式・価値観の変化

AIなどのシステム領域の急速な進化



時勢の変化に合わせた収益構造・組織の改革

顧客の需要に合わせた店舗改装・コンテンツ開発

システム事業チームの再構築

3-2. 今後の展望



エンターテインメント事業

お客様目線でのサービス提供の徹底

- ・ダーツ、ビリヤード、VTuberのリアルイベント
- ・接客力の強化による顧客満足度の向上

定期的な設備投資

- ・完全個室の新設や既存ブースの嵩上げなど
- ・レンタル用の最新ダーツ筐体購入

新規コンテンツ導入

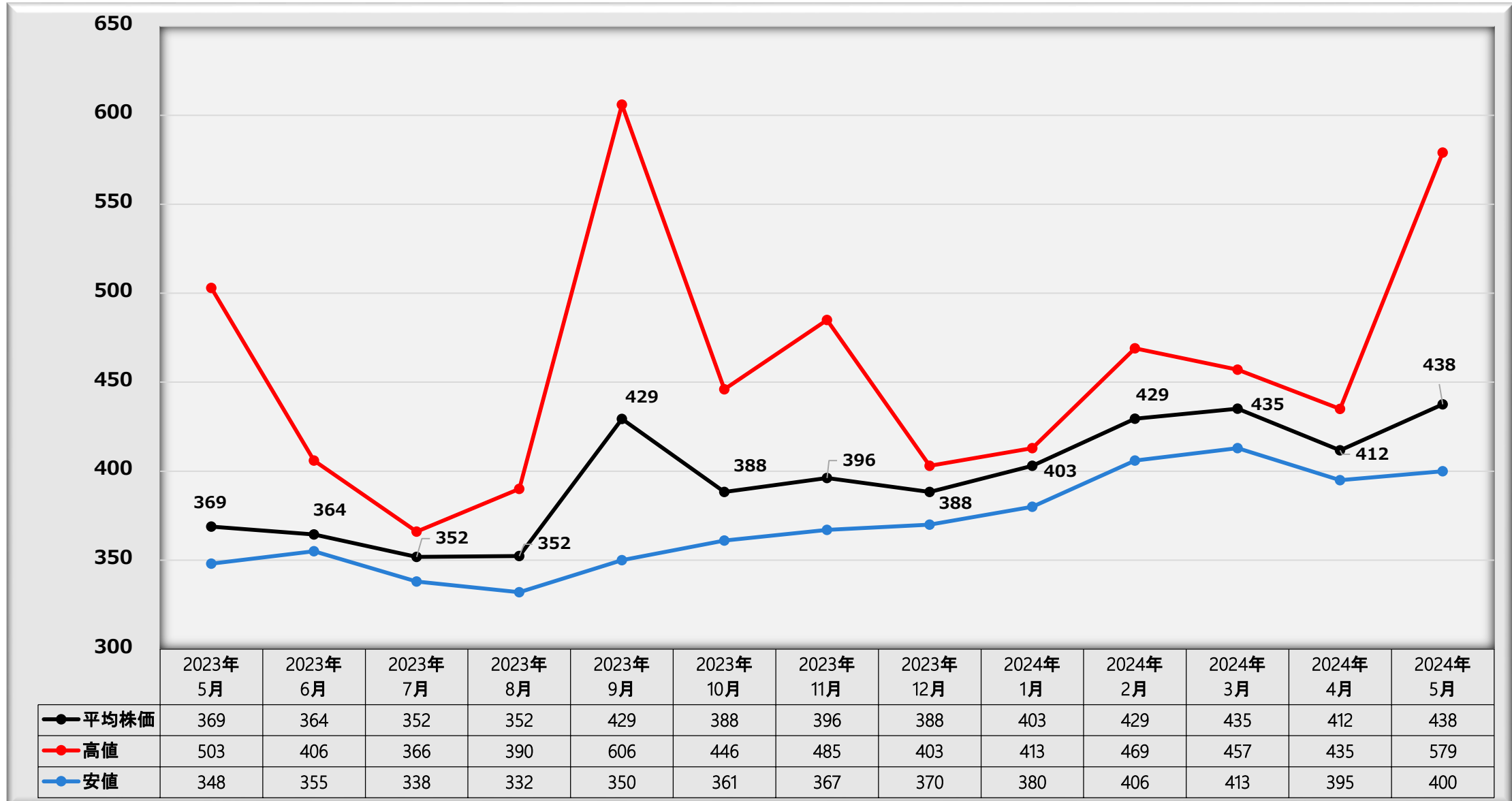
- ・顧客ニーズが高いコンテンツの積極的な導入

システム事業

実用的で革新的なシステム開発

- ・様々な業態で利用できる予約システムの新規開発
- ・店舗経験者の見解を活かした実用性の高い製品開発

株価チャート



社名	株式会社ランシステム (RUNSYSTEM CO.,LTD.)
設立	1988年12月21日
決算月	3月
資本金	100百万円 (発行株式数4,380,900株)
上場市場	東京証券取引所JASDAQ
主な事業内容	1.エンターテインメント事業 2.システム事業 3.不動産事業
本社所在地	埼玉県狭山市狭山台4-27-38
代表者	代表取締役社長 日高 大輔 (ひだか だいすけ)
社員数	グループ社員数128名 (2024年3月末現在) ※役員除く
店舗数	グループ店舗数 92店舗 (直営39店舗・FC53店舗) 3月末現在
子会社	株式会社ランセカンド (エンターテインメント事業) 神奈川県横浜市都筑区北山田3-1-50 快活スクエアビル4F

【当資料についての注意点】

本資料に記載されている業績見通しは、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいて作成されたものであり、リスクや不確定要素を含んだものとなります。実際の業績は様々な要素により、本業績見通しとは大きく異なる可能性がありますことをご了承下さい。

資料に関するお問い合わせ先 / IR担当
TEL:(代) 045-594-6411 E-mail:IR@runsystem.co.jp



ご清聴
ありがとうございました。